

国立大学法人
奈良女子大学

フェスタ
国立大学2011 JANU

記念館一般公開

旧奈良女子高等師範学校本館 《重要文化財》

平成23年10月31日(月)~11月6日(日)

午前9時~午後4時30分(入館は午後4時まで)

入場無料

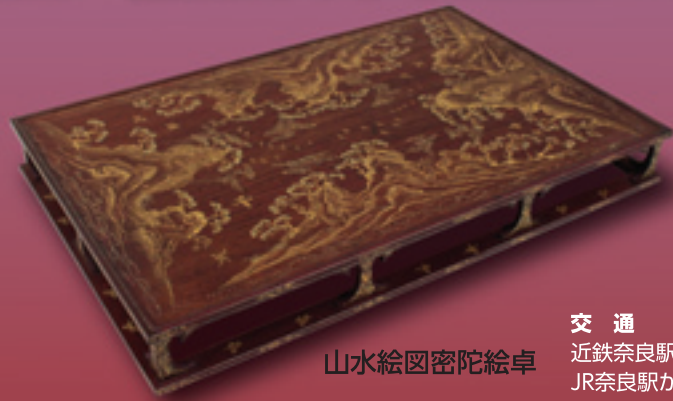
特別展示(古代史・環境史プロテオミクス研究創成事業本部企画)

奈良女子大学所蔵 正倉院模造宝物展

— 吉田包春模造正倉院宝物受贈記念展覧会 —



密陀絵盆



山水絵図密陀絵卓

受贈記念式典・記念講演会

「正倉院宝物の模造と吉田包春」

日時:平成23年10月31日(月)

記念式典:午後1時

記念講演:午後1時30分~午後2時30分

於:記念館2階講堂

講演者:奈良女子大学 古代学学術研究センター
特任教授 松尾良樹

交通

近鉄奈良駅1番出口から徒歩5分
JR奈良駅から市内循環バス
近鉄奈良駅前下車徒歩5分
※車での来場はご遠慮願います。

連絡先

奈良女子大学 総務・企画課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL.0742-20-3220
FAX.0742-20-3205



奈良女子大学記念館について

奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は1908(明治41)年3月に設置され、翌年5月から授業を開始しました。校舎の工事は1908(明治41)年2月から始まり、翌年10月には主要な建物が完成しました。現在、奈良女子大学記念館としている建物は、奈良女子高等師範学校本館としてこのとき建設されたものです。

設計は京都帝国大学建築部長で奈良出張所心得の山本治兵衛が行いました。

木造二階建てで、外観の大きな特徴は、北欧によく見られる木部を外に表す壁構造のハーフティンバー形式をとっており、屋根には頂塔およびドーマー窓が設置されていることにあります。1階は中央に廊下が配され、これを挟む形で7室が設置されています。建物両端にある階段で2階に上ると、フロア全体が大きな講堂となっています。講堂内には柱は用いられず、中央部に二重に織り上げた天井には明かり取りの窓が配され、広々とした空間が広がります。

1994(平成6)年2月から6月にかけて改修工事が行われ、同年12月27日に正門および守衛室と併せて重要文化財に指定されました。

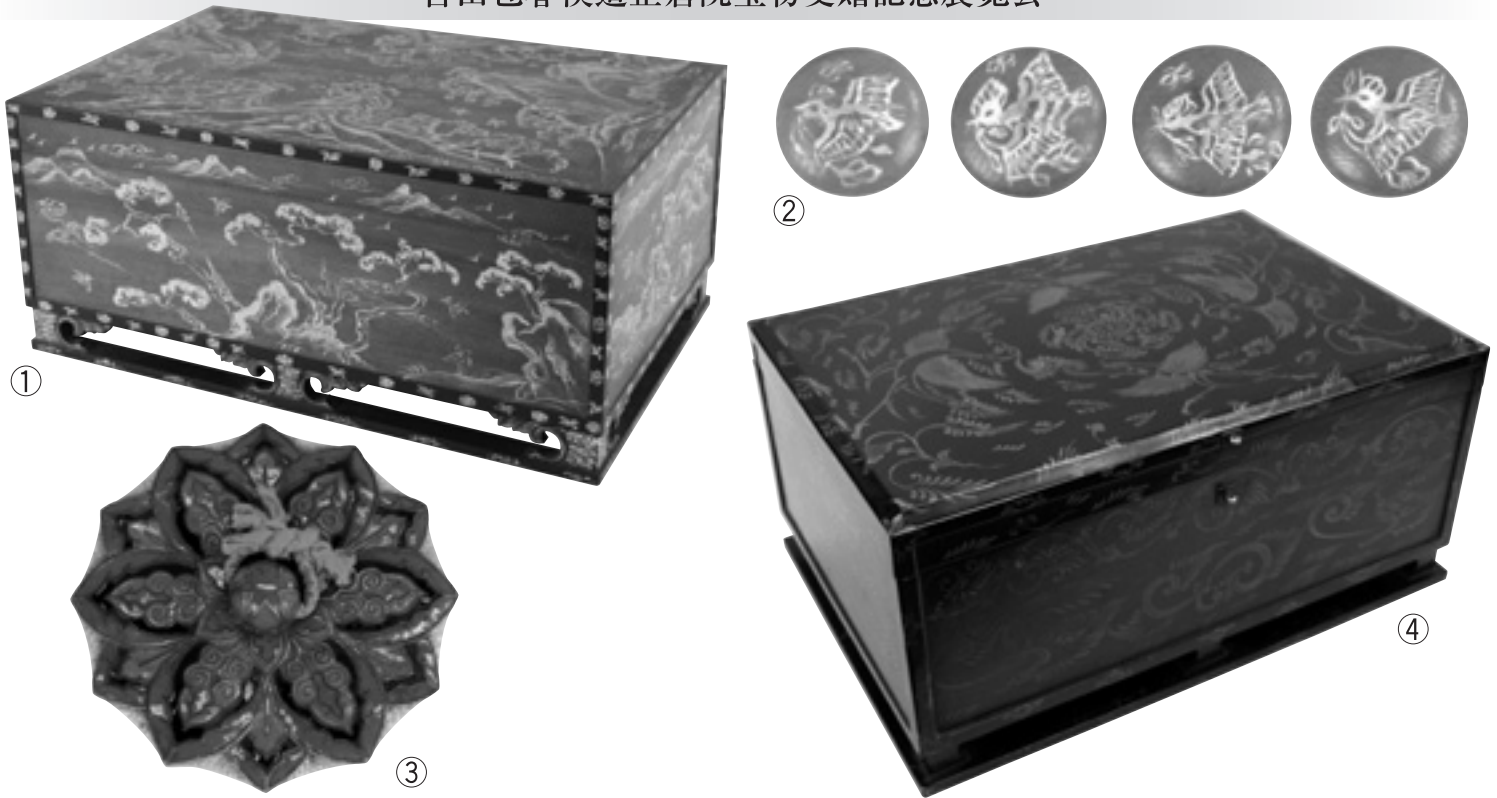
旧本館は建設以来、改変された箇所はほとんどありません。現在も2階講堂内部には奈良女子高等師範学校開校当時から使用されていた長椅子がそのままに並び、開校時に購入したもっとも古い国産ピアノのひとつであるとされる「百年ピアノ」がおかれ、往事を偲ぶことができます。

特別展示

(古代史・環境史プロテオミクス研究創成事業本部企画)

奈良女子大学所蔵正倉院模造宝物展

— 吉田包春模造正倉院宝物受贈記念展覧会 —



正倉院宝物の復元模造は明治10年頃から始まりますが、その折、模造制作を命じられたのが、漆工芸の第一人者 吉田包春でした。

奈良女子大学は奈良女子高等師範学校の時代から、教材として正倉院模造宝物の収集・研究に努めて来ました。こうして所蔵した模造宝物の特色は、大部分が工芸品であること、また工芸品のほとんど全てを吉田包春が作成したものであることにあります。

戦前の模造宝物のほとんどが各所に散逸している現在、吉田包春の手になる正倉院模造宝物を多数所蔵している大学は、奈良女子大学をおいてほかにありません。

昨年、奈良女子大学は吉田昇(吉田包春二男)・怜子ご夫妻から、吉田包春作成の正倉院模造宝物および正倉院文様の手書きの着物の寄贈を受けました。この度の特別展示はこれを記念して行うものです。

模造宝物は、美術工芸品として、また歴史教育の資料として大きな意義を持つとともに、宝物製作のための有力な情報を有しています。正倉院宝物の美しさに思いをはせるとともに、模造宝物製作の重要性を、観覧される皆様に感じて頂ければ幸いです。(写真：①黒柿蘇芳染金銀山水絵箱 ②撥鍍象牙菓子 ③黄金瑠璃鈿背十二稜鏡 ④忍冬唐草鳳凰文小唐櫃)